

こどもの病気対策法①④

—新型コロナウイルス感染拡大のなかでの乳児健診・予防接種—

小宅医院 小宅民子

新型コロナウイルス感染が広がる中、子どもの予防接種を控える動きが起きています。この時期、新型コロナウイルス感染を恐れて子どもを医療機関に連れて行くのを警戒する心理が影響していると考えられます。しかし、予防接種の対象となる病気は、特效薬が無く、致死率が高く、重い後遺症が残る危険が高い病気がほとんどです。

また、津久見市の乳児健診も新型コロナウイルス感染症の影響で3～5月の集団健診が中止となり個別での健診となりました。乳児健診の目的は、月齢や年齢ごとに子どもの成長発達を確認し、起こりやすい病気や問題を早期に見つけて治療に結びつけることです。

今後も流行が想定され、そ

の間に乳児健診や予防接種を控えることは、子どもの健康を守るうえで大きなデメリットとなります。日本小児科学会はホームページで、一般的な感染症対策として、子どもや付き添いの保護者向けの注意点をまとめています。子どもや付き添いの保護者の方の発熱や咳などの症状が無いことを確認する。成人は手指消毒や手洗いを励行しマスクを着用する。また、可能な限りきょうだいや祖父母などの同伴を避ける。健診会場や医療機関でオムツを替えない（新型コロナウイルスは糞便中に排泄する可能性が指摘されている）。集団健診の場合は、人数を調節し、人の接触が最小限になるように工夫するよう呼びかけています。

新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの乳児健診・予防接種 5つのポイント

- 乳児健診・予防接種は予定通りすすめる。
- 受診時の注意点
 - ・子どもや保護者の発熱や咳などの症状が無いことを確認
 - ・成人は手指消毒、手洗い、マスク着用。
 - ・可能な限り家族の同伴を避ける。
 - ・会場や医療機関でオムツを替えない。

